

大阪府（大阪府河南町、千早赤阪村、富田林市）

R5 補正
R6 当初

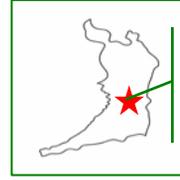
51

背景・課題

南河内地域のいちご産地では、ハダニ類やうどんこ病などの病害虫に対して、化学合成農薬による防除が行われている。農薬の使用量が多いことから、環境への負荷や、薬剤抵抗性の発達が懸念される。

また、農薬の散布回数が増加すると、労働時間、農薬の費用などの防除作業にかかわるコストが増加する。

そこで、農薬以外の防除技術を利用し、農薬の使用やそれに伴うコストを削減する必要がある。



河南町、
千早赤阪村、
富田林市

構成員

大阪府、大阪南農業協同組合、
（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所

品目

いちご

成果目標

- 化学農薬の使用量低減
- 省力化：農薬使用回数の削減

主な取組内容

- 苗への炭酸ガス施用（対象病害虫：ハダニ類）、本圃での紫外線照射及び光反射資材の設置（対象病害虫：うどんこ病、ハダニ類）、生物農薬の利用（対象病害虫：ハダニ類、アブラムシ類）により、化学合成農薬の使用回数の削減に取り組んでいる。
- 令和6年10月時点、技術を検証中。



炭酸ガス施用



紫外線照射
（UV-B蛍光灯）

写真提供：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所

普及に向けた取組

産地内ほ場にて、炭酸ガス施用、紫外線照射及び光反射資材の設置、生物農薬を活用した栽培体系を検証し、その効果や課題について、関係者と協議を実施。3か年の取組をまとめたマニュアルを作成し、JA・生産者団体等と連携して普及に取り組む。

問い合わせ先

大阪府環境農林水産部農政室推進課地産地消推進グループ
TEL：06-6210-9590